

科目名		地球環境と建築				
担当教員		田中　みちよ		実務授業の有無	有	
対象学科		建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方		持続的社会的の実現を目指して、地球環境問題と建築との関わりに関する知識を体系的に学ぶ。				
学習目標 (到達目標)		地球スケールで起きている環境問題と建築におけるサステナビリティを理解し、地球環境問題の解決に貢献出来る。「地球環境・建築憲章とその運用指針」の理念を理解し、建築技術、建築活動として具体化することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		彰国社『地球環境建築のすすめ』				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	考察 1			「地球環境・建築憲章とその運用指針」について理解し、現代のわれわれが担う責任について考察。		
2	考察 2			エネルギーの流れと物質の循環、LCAについて理解し、建築の環境負荷について考察。		
3	考察 3			自然の力、生態系を理解し、その中での建築、人間生活のあり方やこどもの成長発達について考察。		
4	考察 4			建築が立地する場所の自然・風土・景観・文化を読むことの重要性について理解し、評価方法を考察。		
5	考察 5			サステナブル建築に関する政策について理解し、社会における建築専門家の責任ついて考察。		
6	レポート作成 1			環境に与える負荷の少ない持続可能な建築のあり方について述べなさい。		
7	レポート作成 2			都市（もしくは田園、森林など）が抱える環境的な問題や課題を指摘し、持続可能な地域環境を形成する上で有効な事例や解決策について述べなさい。		
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題提出			出席状況	【レポート提出について】 A4版市販用紙の使用も可		
90　%		%	10　%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		建設会社及び建築設計事務所(自営)で、施工管理・積算・品質管理の実務32年				

科目名		就職実務			
担当教員		渡部 和久		実務授業の有無	無
対象学科	建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	46
授業概要、目的、授業の進め方		就職活動を円滑に進めるために、必要な手法を学ぶ。志望する企業の内定を獲得するために、計画的な準備と活動を促す。			
学習目標 (到達目標)		就職活動を主体的かつ効率良く行う。内定の獲得。社会人としてのマナーを身に付ける。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		SUCCESS、配布資料等			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	就職活動の流れ・応募書類・情報収集について		就職活動の流れ、学校のルールや応募書類について理解する。情報収集の方法や、準備など、今後の見通しを立てる。ポートフォリオの作成について確認。		
2	ビジネスメール		ビジネスメールの定型を理解し、就職活動でのメールやり取りを想定してメールを作成、送信する。(件名・宛名・挨拶・書き出し・内容・署名・ファイルの添付)		
3	エントリーシート・自己PR・志望動機		記入のポイントを踏まえ、自分のストーリーが見える文章をまとめる。文字数制限に合わせたエントリーシート・自己PR・志望動機を作成する。		
4	面接のポイント		入退室、挨拶等基本的な面接マナーと、事前準備を確認、それぞれの場に対応できるように、ロールプレイングも行う。		
5	MEMOの重要性		社会人にとって当たり前のメモの重要性を啓発。また、メモの目的や書き方を知ることによって、現在の勉強の仕方にも通じることを理解させる。		
6	リスニングテスト（評価テスト）と解説		レポートを聞き取り、メモの重要性を踏まえたうえでメモをしあとからの設問に答えるテスト。2回実施		
7	新入社員に求められること		この時期内定者も多くいるため、新入社員として求められる姿勢や、マナー、組織とは何か、仕事の考え方などを学ぶ		
8	学生の希望に合わせた個別フォロー		それぞれの活動状況合わせ、個別フォローを行う。		
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
平常点	課題	小テスト		就職内定を獲得するため、就職活動を支援すると共に、社会人としてのマナーの重要性を学びます。必要な指導を受けながら、主体的に就職活動を進め、最終目標を達成しましょう。	
80 %	20 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		現場施工に9年携わる			

科目名		建築論文対策				
担当教員		渡部 和久		実務授業の有無	有	
対象学科		建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	274
授業概要、目的、 授業の進め方		各科目のレポート課題作成				
学習目標 (到達目標)						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料						
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	景観論			レポート作成		
2	地球環境と建築			レポート作成		
3	建築デザイン論			レポート作成		
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題提出		出席状況		【課題提出方法】		
90 %	%	10 %	%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		現場施工に 9 年携わる				

科目名		建築史				
担当教員		熊谷 貴子		実務授業の有無	有	
対象学科		建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	30
授業概要、目的、 授業の進め方		各時代の権力者は政治・経済・文化を背景にその時代の先端技術・芸術を駆使し見事な空間・構造・装飾による建築を創造し続けた。一方、庶民はその地方性、風土性の影響の中で伝統的な技術手段でゆっくりとした変遷を辿り美しい民家・町家を造り続けた。近代に入ってこの2つは普遍化し現代建築が展開している。この歴史の中で専門家達（僧侶、棟梁、職人、建築家、技術者）が各時代に何を基本的技法手段で建造したのか、その内容を深く学びとることが明日の建築文化を創造する大切な姿勢である。				
学習目標 （到達目標）		日本建築・西洋建築・近代建築の変遷と、各時代・地域における様式・構造・技術の特徴を理解し、それらをつくりだした理念や社会背景など文化の特質についても考える。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		市ヶ谷出版社『建築史 増補改訂版』				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	日本建築史			（１）日本古代の建築 （２）日本中世の建築 （３）日本近世の建築西洋建築史		
2	西洋建築史			（１）西洋古代の建築 （２）西洋中世の建築 （３）西洋近世の建築近代建築史		
3	近代建築史			（１）近代建築の発生 （２）近代建築の発展 （３）日本の近代建築		
4	レポート作成 1			寝殿造、書院造、数寄屋造の3つの様式の中から一つ選び、その住居形式の構成と生活様式の関連でどの様な約束、仕組みで生活空間が展開したのか詳しく述べよ。		
5	レポート作成 2			“建築の書”の理論に基づき、建築理論を展開しアルベルティ、パッラディオなどが見事な建築を残した。参考書を通し、その理論と実例の関連で良く理解し記述する。		
6						
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題提出 45 %	期末試験 45 %	出席状況 10 %	%	【レポート提出について】 A4版市販用紙の使用も可		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		建設会社にて設計補助・インテリアコーディネーター、職業訓練校にてCAD・製図の外部講師、現在家業の建築大工と協働				

科目名		建築デザイン論				
担当教員		田中 理恵子		実務授業の有無	有	
対象学科		建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	30
授業概要、目的、 授業の進め方		近代以降、デザインは「製造に先立ち形を造ること」と定義されている。これに従えば、建築デザインとは「施工に先立ち建築空間の形を造ること」と言えるだろう。建築デザイン論では、この「形」という面から建築を考えてみる。建築空間とそれを構成する建造物の形態について学び、どのようなデザイン手法によってこれらが造り出されていくのかを習得しよう。				
学習目標 (到達目標)		(1) テキストを通読し建築デザインの手法についての基本概念を学ぶ。 (2) 建築を形態によって分析し、建築デザインの手法についての理解を深める。 (3) 建築デザインの持つ広範な可能性や問題点について考察する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		井上書院『空間デザイン事典』				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	建築選び			デザイン的に特徴のある建築をひとつ選ぶ。外から見ただけなく、内部空間を体験できるものを選ぶ。		
2	空間の知覚・体験			選択した建築に実際に訪れ、理屈抜きにその建築を味わう。どのような感じがするか？その感覚を記録する。		
3	分析			前回の項目で味わった感覚が、どのようなデザインによってもたらされているのか。建築を詳細に観察し、教科書による学習をもとに形態による分析を行う。		
4	レポート作成			学習の内容を以下の構成でレポートにまとめる。 (1)建築の概要など (2)選択したデザイン手法ごとにまとめた分析内容 (3)建築のデザイン・コンセプト		
5						
6						
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題提出 45 %	期末試験 45 %	出席状況 10 %		【レポート提出について】 A4版市販用紙の使用も可		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		設計事務所で設計に39年携わる				

科目名		景観論				
担当教員		上山 寛		実務授業の有無	有	
対象学科		建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方		日本や海外の農山漁村、都市の歴史的・文化的な景観の特徴や景観整備の手法や制度との比較など、様々な観点より景観論、景観デザインについて考える。景観とはなにか、風景とはなにか、から出発し、庭園の歴史も視野に納めながら、景観の分析手法や評価法、関連する制度など技術的内容までを幅広く学ぶ。				
学習目標 (到達目標)		景観を論じ、またデザインするための基礎的な理念を学ぶ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		彰国社『景観用語事典増補改訂版』				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	【レポート課題】 第1課題			あなたが住んでいるまち並みの景観について調査し、「変わってほしいところ」と「変わってほしくないところ」を写真に撮って、それらについてレポートしなさい。		
2	第2課題			第1課題で取り上げた「変わってほしくないところ」はどのように保全されてきたのだろうか、景観の保全や維持について、行政の施策や市民の取り組みについて言及しなさい。		
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題提出 45 %		期末試験 45 %	出席状況 10 %		【レポートの提出について】 A4版市販用紙の使用も可	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		自身の設計事務所にて設計監理歴34年				

科目名		インテリア学				
担当教員		渡邊 久美		実務授業の有無	有	
対象学科		建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方		自室の問題点を見だし、その改善案を考える先に自ら理想空間を創造していくプロセスを学ぶ。 能動的な優れたインテリア空間の体験やテキストでの学習、様々な知識、情報の入手により自室の理想空間のデザインプレゼンテーションパネル（レポート）を制作する。				
学習目標 （到達目標）		建築とは決して箱を作る事ではなく、今自分の立つ、自分の居る空間の有り様から考える事を知ることができる。 心地良いとは何か、居心地とは何かを考えことができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		彰国社『インテリアの空間と要素をデザインする』				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	課題			現状の不満点、問題点を抽出し、項目、空間別に整理する。 日常触れる先進的な空間体験や学習内容、インテリア雑誌等から理想とするイメージを膨らませ構想案メモを練る。		
2	課題			構想案に従い、具体的にラフスケッチを何度も自由に納得がいくまで理想像に近づけるようスケッチする。		
3	課題			スケッチは室内の形状、広さ、開口部の大きさや位置、照明の効果、光の入り方、壁や床、天井の色や素材、家具や敷物、調度品、オーディオなど全てにおいてリデザインする。		
4	課題			平面図、展開図、断面図、素材見本、スケッチパース、CGスケッチ等で、第三者に対して分かりやすく丁寧に図面を作成する。		
5	課題			実際のサンプルやカタログから自分のデザインコンセプトやテイスト、スタイルにあったものを選択し図面に書込む。イメージが分かるよう写真を含めてレイアウトする。		
6	課題			実際の空間を把握し、説明が容易なように簡単な模型を製作する。		
7	課題			美しく、分かりやすくプレゼンテーションする。センターに着色した俯瞰パースを描き左右に製図を貼る。余白を利用し美しくスケッチや写真を貼り込んで完成させる。		
8	課題			CAD科目で修得した成果を駆使する。積極的にCGによるパースや図面を読む側が分かりやすく伝えられるよう美しく表現する。		
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題提出 90 %		% 出席状況 10 %		% プレゼンテーションボードとは、デザインする対象を、コンセプトやテーマ考え方、その計画内容を一目で分かりやすくビジュアルに表現されたもの指す。 表現は、第三者、特にクライアントに見せるレベルのエスキスとする。鉛筆やボールペン書きの雑な貼り込みやレイアウト、文字表現など、見る相手に分りにくく美しくないものは、デザイン評価の対象としない。 美しく表現されたもので、問題点を抽出し分析した上で新たな創造性が表現されたものを評価の対象とする。		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		二級建築士事務所にて設計とインテリアコーディネートに25年携わる				